

金属加工業者と米国視察

経産省とJETROと試作品市場展開を支援

経済産業省素形材産業室と日本貿易振興機構（JETRO）は今月、国内の中小金属加工業者とともに米国視

察を行った。日本企業の優れた鋳鍛造などの技術を米国の試作品市場に展開することを後押しするのが目的で、

3日間の日程で現地のユーザーや加工業者を訪問。現地市場の状況やビジネスの可能性について、参加企業から

は前向きな反応が得られた。素形材産業室はこれまで、米国の先端市場の動向を探るため企

業同行でシリコンバレー視察を行ってきた。今回は「米国試作品市場チャレンジ」と銘打って、試作品ビジネスの米国展開に重点を置いた視察をJETROと企画。公募に応じた大和合金（本社＝東京都板橋区）、共和産業（群馬県高崎市）、モールド技研（静岡県浜松市）、三条特殊鋳工所（新潟県三条市）が参

加した。日本には高い金属加工技術を持つ企業が数多く存在するが、国内製造業のGDPは横ばいが続いております。将来的な成長を見据えんと「日本プラスアルファ」（経産省担当者）の市場の取り込みが重要。その有望な候補として製造業GDPの成長率が日本より高く、付加利益率も高い米国の試

作品市場をターゲットに据えた。視察は11月13日から15日に実施。製造業が盛んなイリノイ州、ミネソタ州、ミシガン州で機械の展示会や医療機器メーカー、ガラスメーカーを訪れたほか、現地の鋳鍛造業者なども見学した。特殊銅合金を手掛ける大和合金の萩野源次郎社長は、「（米国に）力強い消費力と人口が

あり、頼もしい市場であるのを認識できた。当社の材料を使ってもらえるキーパーソンを見つけるためのチャレンジを続けられ、どこかのタイミングで販売できるチャンスに巡り合えるとも肌で実感できた」と語る。素形材産業室は企業の米国進出のきっかけづくりとして、来年度もさらに内容を拡充して視察を企画する方針だ。